

高齢者の自由な暮らしを支える

サービス付き高齢者住宅を行政視察

介護保険制度が始まって17年が経過しました。八丈町でも様々な課題が出てきているなか、最近では介護保険の対象にならない「サービス付き高齢者住宅」（＝サ高住）が注目され、八丈島でも今年から民間の事業所が運営を始めます。そこで、「サ高住」とはどのようなものなのかを知っておく必要があると考え、先進的な取り組みをしている石川県金沢市と品川区の施設を視察してきました。1月中旬、奥山博文、水野佳子、沖山恵子、幸子の4議員と監査委員、事務局職員を加えた6人で、雪の金沢に行ってきました。

サービス付きって何？ サ高住とは、「65歳以上の元気な高齢者のための賃貸住宅」で、居室にはトイレ、キッチン、風呂のほか、緊急通報システムや生活リズムセンサーがついています。見守りのための定時巡回や希望すれば配食もあります。つまり単なるアパートにはないサービスを提供することで、入居者は安心・安全な生活支援が受けられるというものです。

シェア金沢 金沢市の郊外に、5年前に開設された複合福祉施設です。約1万坪の広大な敷地に学生向け住宅、障がい者向け施設、児童入所施設、サービス付き高齢者住宅などが立ち並び、共有スペースとして温泉やアルパカ牧場、共同売店やカフェなどが設けられていました（写真）。当日はひどい雪で、施設のそれぞれを見学することはできませんでしたが、メインの施設を回るだけでも、人の交流を大切にする暖かさを実感できました。

利用料は シェア金沢のサ高住の場合は、家賃、光熱費、生活状況把握費をあわせて、月額約12万円（食事代は別）。サ高住の床面積の基準は25㎡なのですが、ここは42㎡と広く、ペットも飼えることに驚きました。

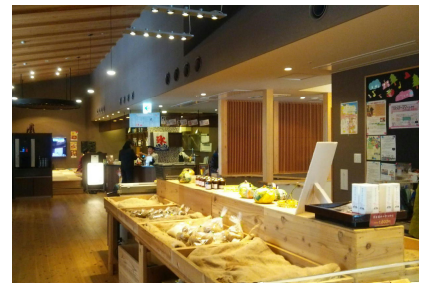
ごちゃまぜの力 敷地内に天然温泉があり、施設内の人や地域の人と交流ができます。年間を通じて様々なイベントが企画され、利用者が自主的にかかわっていくという取り組みも参考になりました。児童、学生、スタッフ、



高齢者に地域の人が変わり、異なる世代が日常的にごちゃまぜに交わる場になっていることが、高齢者だけでなく施設利用者の生きがいにつながっていると思いました。アルパカやペットの存在も、人々の絆づくりに一役かっているようでした。

品川区立のサービス付き高齢者住宅

平成24年に開設された高齢者複合施設で在宅介護支援センター、地域密着多機能ホーム、介護ステーションが併設されています。市街地の中心にある5階建てのビルで、入居戸数は90戸。1戸は約25㎡の広さがあり、昼間の常駐スタッフと夜間の警備員のほか、生活リズムセンサーによって24時間の見守りが確保されています。品川区には7つのサ高住がありますが、区が直営しているのはここだけです。



前ページより続く

配食なし 一般的なサ高住と異なりここでは原則として配食はありません。理由は、同じ業者の味に飽きることを避ける、またできるだけ自分の力で食事の用意をすることを促すためだと説明がありました。私たちが説明を受けている間にも、生協の宅配があり、生鮮食料品移動販売車「とくし丸」が1時間待機していて自由な買い物ができる環境が整っていました。また、大井町の駅近くにあるため周囲に飲食店が多く、外食する方も多いとのことでした。



仕事もここから 100人近くの入居者のうち、約4割の方がここから仕事に出かけていくということです。タクシーの運転手やラーメン屋やスナックのママなど飲食関係の仕事が多いそうです。施設が人を管理するのではなく、一人一人の生き方を陰から支えるという考え方に共感しました。



利用料 収入にもよりますが、単身用（風呂あり）で月額75,000円、2人用で100,000円。これに生活支援サービスと共益費で約2万円程度かかります（ただし、低所得者には区の助成があります）。

八丈でも選択できる環境を



介護保険制度は、もともと在宅で最期まで過ごせるように環境を確保するしくみです。八丈町には民間のデイサービス事業所が5ヵ所あります（うち認知症対応の事業所が2ヵ所）。訪問介護は社協と養和会、つばきヘルパーステーションが行っています。介護度が上がれば特別養護老人ホームがあり、ショートステイのサービスもあるので、比較的めぐまれた環境にあると思います。ただ、特養の待機者が多いとか（島外の有料老人ホームに入所する人もいる）、医療と介護の連携が十分でないなど、まだ課題はあります。

2つの施設を見て、八丈でどう活かせるかを考えてみました。まず、必要なのは民間の事業所と行政の緊密な連携で、情報を共有してこそ適切な対応ができます。元気なうちは在宅で個性にあった仕事や趣味に生き、生活に支障がでてきて助けが必要になったら介護サービスを受ける。その拠点はそれまで慣れ親しんだ自宅であっても、サ高住であっても、特養ホームであってもいい。一人一人の人生にふさわしい、個性を重視した生き方を支援するしくみを町が提示すべきでしょう。収入の多少にかかわらず、その選択ができる環境を整えることが急務だと思いました。

来年度予算編成に向けて

1月26日の総務文教協議会（午前）と、経済企業協議会（午後）で、それぞれの担当課の事業内容の説明を受けました。さらに2月5日の全員協議会では、全体をとおしての説明を受け、予算の内容について質問や要望を出しました。

まず、フリージアまつりの抜本的な見直しとテコ入れを求めました。10年以上前から花が不足しているのに、生産者を支援し生産を増やすための具体的な施策はほとんどなかったからで、私を含め多くの議員がこの点を指摘しました。また、ふるさと納税に関する課題、鯨の調査に町予算をつかう問題、町立八丈病院の施設の改善点などいくつかを指摘しました。

3月議会ではより実のある議論を尽くせるよう、準備をして臨みたいと思います。



2017年12月議会 一般質問



1. 旧末吉小学校の利用状況と今後の計画は

旧末吉小の利用については看護学校や日本語学校の誘致に始まり、様々な試験的な取り組みがあった。現在も進行中だが、事業の現状や今後の計画が住民に十分伝わっていないように思う。

- (1) 学生の宿泊施設としての利用 (2) 熱中小学校の目的と現状 (3) 地域おこし協力隊の活動は
(4) SOHOの誘致状況は

町の答弁 多目的交流施設として整備し、熱中小学校や学生の宿泊などを行ない一定の整理がついたが、状況が変わったので今後の活用を検討していきたい。

(1) 宿泊施設としての利用は110人。(2) 地方創生の施策として始めた。人的交流や講師との知的交流が目的。去年は66人、今年は48人が参加する。(3) 末吉地区に住み、交流施設の利用を推進しつつ地元の人との交流も深め、地域に溶け込んでいる。(4) 現時点で誘致はできていない。



再質問 (1) 1年かけて内容を検討するというが、これまでに数千万円の投資をしているのにもったいない。簡易宿泊所としての条件を満たすための投資を行ない、きちんとした施設にすべきだ。欠航時の臨時宿泊施設の可能性もある。無料では町の負担が増える。利用者は実費だけでも負担すべきだ。

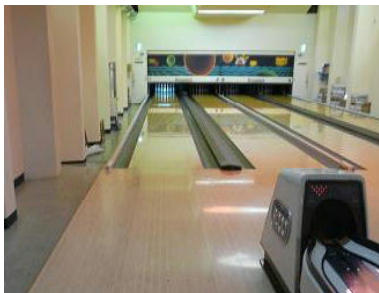
- (3) 協力隊どうしの連携を進めるためにも、もう2人くらい増やす考えはないか。

町 (1) 有料化だけが目的ではない。資格をとることがいいのか検討したい。

- (3) 黄八丈の関係でもう一人募集を進めている。

2. コミュニティーセンターの整備計画を明らかに

住民の福祉を目的に東京都が建てたものだが、現在は町の所有になっている。今もそれぞれの施設は住民の憩いの場としての役割を果たしていると思う。しかし、テニスコートや体育館は一部改修されているものの、本体の建物は老朽化が進んでいる。今後の整備計画はあるか。



- (1) ボウリング場の経営状況と今後の見通しは (2) テニスコート、体育館の利用状況は (3) 図書館を改修する予定はあるか

町の答弁 (1) 住民や観光客に一定程度の利用があるが、収入は180万円で支出は650万円(内人件費580万円)で経営は厳しい。施設は老朽化しているが、改修しながら延命化をはかる。(2) ともに一定程度の利用があり憩いの場となっている。(3) 人口減少が進む中、世の中の流れで公共施設の利用需要が変化していくので、既存の施設を改修・改善しながら有効活用していく。

再質問 (1)、(2)については厳しい財政状況なので経営状態を精査してほしい。(3)については、ハード面は無理としてもソフト面の工夫は必要だ。改修の考えはあるか。

町 収入、支出は精査したい。現在、図書館については改修の予定はない。

3. 大賀郷の道路拡張にともなう旧役場の跡地利用はどうなるのか

旧役場周辺の道路整備事業の着工は3年後とされているが、敷地の中央に道路を通す計画は具体的にどのようなものなのか、また町として跡地利用の計画はあるのか。

(1) 観光協会とバスターミナルはどうなるのか

(2) 屋根付き待合所と売店を整備すべきではないか。また、都の計画はいつ出されるのか。

町の答弁 東京都による土地買収や移転補償費を算定中なので、それが出ないと町の方針は明らかにできない。計画は今年度末くらいには出されると思う。

12月議会 補正予算・決算での私の発言

●介護予防・日常生活支援総合事業の実績は 本年度からスタートした総合事業については、その受け皿としてシルバー人材センターの方を考えているとのことだったが、実態はどうなっているか。

町 アンケートに答えてくれた約60人の方に研修会のお知らせを出したが、5月の研修会に参加したのは10人だった。利用者からの要望として包括支援センターに連絡があったのは、今のところ1件のみとなっている。

●和牛オーナー制度の普及を ふれあい牧場には現在35～40頭の黒毛和牛が放牧されているが、この牧場は畜産振興としてだけでなく観光スポットとして重要な意味がある。オーナーを増やす努力をすべきでは。

町 ヤギの駆除事業が終了すれば放牧区が増えるので頭数を増やすことはできるが、牧場内で思うように増えていない。急がず進めていく。



●寄付金の使途 27年、28年度に多額の寄付金があったが、基金に繰り入れている。金額が大きいので特定の事業にあてるという予算配分はできないか。

町 今年度は、一部事業に使わせていただいている。寄付者は使途の内容についてはとくに要望はないとのことだった。

●介護保険料改定時の保険料見込みは

町 第5期から第6期になるときにかなり上がってしまったが、7期には大幅な値上げにはならない。

編集後記



1月の行政視察で2カ所の施設を見ましたが、解説をくださったのはいずれも女性でした。「シェア金沢」では施設長、「品川区のサ高住」では品川区の課長で、具体例をあげながら、わかりやすく説明してくれました。

サ高住の利用者の平均年齢は77～78歳。しかも女性の割合が多いので、利用者の要望などを受け取りやすいのではないかと思います。同時に、こうした女性の活躍を頼もしく思いました。